

山田和政

①氏名の英語表記

Kazumasa Yamada

②「学位・医療資格」「研究分野」

<学 位> 博士 (医学)

<医療資格> 理学療法士 呼吸療法認定士 介護支援専門

員<研究分野> 健康支援学 理学療法学

③「略歴」

昭和 61 年 4 月 自治医科大学附属病院

昭和 62 年 4 月 財団法人化学療法研究所附属病院

平成 6 年 7 月 自治医科大学附属大宮医療センター

平成 8 年 4 月 専門学校愛知医療学院

平成 15 年 4 月 星城大学リハビリテーション学部

④「研究内容」

- ・視機能と生活環境に関する研究
- ・視覚と転倒に関する研究
- ・高齢者の日常生活行動に関する研究
- ・病棟入院患者の栄養に関する研究

⑤「主な業績」について

【著書】過去 5 年間

- 1) 細田多穂 (監修) 山田和政・小松泰喜・木村勉 (編集), 山田和政, 他, 高齢者理学療法学テキスト (改訂第 2 版), 南江堂, 1-5, 14, 45-48, 89-98, 2021 年.

【論文】過去 5 年間

- 1) Kenta Kunoh, Daisuke Kimura, Shun Murai, Takuma Kaiko, Naoki Tomiyama, Kazumasa Yamada, Relevance of Visual Acuity and Depth Perception to Performance on the Purdue Pegboard Test, Optometry & visual performance (in press).
- 2) 石野晶大, 山田和政, 牧 芳昭, 回復期リハビリテーション病棟に入退棟した低栄養リスクを有する脳卒中患者における栄養状態の推移の実態と日常生活動作改善度への影響, 理学療法学 (in press).
- 3) 石野晶大, 山田和政, 藤井博昭, 三田琢磨, 細井雄一郎, 回復期脳卒中患者における入院期間中の身体機能・能力評価の変化量を用いた退院時の歩行自立度の予後予測-決

- 定木分析を用いた検証-, 愛知県理学療法学会誌, 35(2), 96-103, 2023.
- 4) Kazumasa Yamada, Kiminobu Furukawa, Iemasa Hayashi, Takuma Kaiko, Yuta Miyahara, Daisuke Kimura, Falling Mechanism During a Dual Task Based on Eye Movement and Frontal Blood Flow in the Elderly, *International Journal of Gerontology* 17, 99-104, 2023.
 - 5) Daisuke Kimura, Hiroki Bizen, Aiko Imai, Kenta kuno, Kazumasa Yamada, "Now" Behavioral Patterns in Elderly Dementia with Cognitive, Motivational, and Emotional dysfunction: Analysis of Behavioral Patterns Using Network Analysis Based on Graph Theory, *Journal of Psychiatry and Brain Science*, 8(2):e230004, 2023.
 - 6) Katsunari Sato, Akira Ochi, Kazuko Watanabe, Kazumasa Yamada, Effects of dance video game training on cognitive functions of community-dwelling older adults with mild cognitive impairment, *Aging Clinical and Experimental Research*, 35(5), 987-994, 2023.
 - 7) 細野了誠, 越智 亮, 福田利佳, 山田和政, 脳卒中片麻痺症例の歩行時足関節背屈角度増大を目的とした随意運動介助型電気刺激装置の治療方法の検討~2 つの治療方法を比較したシングルケーススタディ~, 岐阜県理学療法士会学術誌, 27, 24-28, 2023.
 - 8) 伊井公一, 鈴木一弘, 山中健行, 山田和政, 転倒低リスク高齢者の Sit-To-Walk におけるステップ時間変動係数の転倒リスク評価指標としての有用性, 愛知県理学療法学会誌, 34(2), 51-56, 2022.
 - 9) 則竹賢人, 窪優太, 林尊弘, 山田和政, 高齢入院患者における栄養評価指標としての Phase angle の有用性, *理学療法科学*, 37(1), 87-93, 2022.
 - 10) Yuta Kubo, Kento Noritake, Daiki Nakashima, Keisuke Fujii and Kazumasa Yamada, Relationship between nutritional status and phase angle as a noninvasive method to predict malnutrition by sex in older inpatients, *Nagoya J. Med. Sci*, 83, 31-40, 2021.
 - 11) 久納健太, 木村大介, 備前宏紀, 藤井啓介, 山田和政, 長期入院患者の自動車運転時の視覚性認知に関する検討~眼球運動と脳血流量の同時計測による検討~, 岐阜作業療法, 21, 6-11, 2021.
 - 12) Kazumasa Yamada, Kiminobu Furukawa, Shinya Yokoyama, Daisuke Kimura, Kazuko Watanabe, Eye Movements and Frontal Cerebral Blood Flow during Dual-Task Performance in Young Adults: Basic Data to Identify the Mechanisms Underlying Falling in Older Adults, *Int J Neurorehabilitation Eng*, 7, 2020.
 - 13) 中村浩哉, 木村大介, 山田和政, 参加希望者と非参加希望者が混在した院内デイケアにおける非参加希望者の介入効果の検討, *健康レクリエーション研究*, 15, 11-173, 2019.

- 14) Kubo Y, Hayashi H, Noritake K, Yamada K, Okada S, Effects of depression on the condition of older inpatients with fracture and pre-existing cognitive impairment, *Disability and Rehabilitation*, 18, 1-5, 2019.

【学会発表】過去3年間

- 1) 今井優利, 小池莉歩, 山田和政, 理学療法士による職員に対する腰痛予防の取り組み, 第34回全国介護老人保健施設大会宮崎(宮城県仙台市), 2023年11月21-22日.
- 2) 越智 亮, 早矢仕宇理, 中村美月, 青山美空, 子林卓司, 村上ま比呂, 林 尊弘, 山田和政, 地域在住高齢者の敏捷性検査と下肢筋力発揮率は転倒回避動作におけるステップ戦略を判別する. 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会(宮崎県宮崎市), 2023年11月3-5日.
- 3) 越智 亮, 早矢仕宇理, 中村美月, 子林卓司, 村上ま比呂, 山田和政, 高齢者の転倒リスクと関連する転倒回避ステップ戦略を判別する敏捷性検査の確立. 第39回東海北陸理学療法学会(石川県小松市), 2023年9月30日-10月1日.
- 4) 村井 舜, 久納健太, 木村大介, 富山直輝, 山田和政, Purdue Pegboard Testと視機能における関係性の検討, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会(岡山県岡山市), 2022年11月12-12月11日.
- 5) 石野晶大, 牧 芳昭, 中橋亮平, 山田和政, 回復期低栄養脳卒中患者の栄養状態の経過別における退院時の日常生活動作改善度の差異, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会(岡山県岡山市), 2022年11月4-6日.
- 6) 市江紘己, 福田利佳, 越智 亮, 山田和政, 大山章子, 安藤弘道, COPDの急性増悪後に低負荷の運動療法を実施し歩行能力が改善した症例, 第38回東海北陸理学療法学会(愛知県・オンライン開催), 2022年10月29-30日.
- 7) 石野晶大, 細井雄一郎, 三田琢磨, 藤井博昭, 山田和政, 回復期脳卒中患者における入院期間中の身体機能・能力評価の変化量を用いた退院時の歩行自立度の予後予測-決定木分析を用いた検証-, 第38回東海北陸理学療法学会(愛知県・オンライン開催), 2022年10月29-30日.
- 8) 伊井公一, 鈴木一弘, 神野佑輔, 山田和政, 転倒恐怖心が転倒低リスク高齢者の起立-歩行課題に与える影響について, 第38回東海北陸理学療法学会(愛知県・オンライン開催), 2022年10月29-30日.
- 9) 遠藤采音, 服部雅幸, 山田和政, 安藤弘道, 大山章子, 意味ルートを賦活化し言語機能が改善した重度運動性失語の一症例, 第37回岐阜県病院協会医学会(岐阜県多治見市), 2022年10月23日.
- 10) 中嶋大貴, 田中萌乃, 浅野文哉, 山田和政, 大山章子, 安藤弘道, 訪問リハビリテーションの介入により自宅内移動が歩行自立となった一症例~環境設定に着目して~, 第37回岐阜県病院協会医学会(岐阜県多治見市), 2022年10月23日.

- 11) 石野晶大, 山田和政, 高取里英, 河本友紀, 芥川比呂, 加藤聡子, 急性期病院在院中に虚弱性および低栄養を併発した頭部外傷症例に対するリハビリテーション栄養の実践, リハビリテーション・ケア合同研究大会苫小牧 2022(北海道苫小牧市), 2022年9月30日-10月1日.
- 12) 市橋星香, 木村大介, 海光拓磨, 山田和政, 脳卒中後アパシーを呈した事例に対するアパシー類型化後の介入, 第56回日本作業療法学会(京都府・Web開催), 2022年9月16-10月23日.
- 13) 立岩慧士, 木村大介, 海光拓磨, 山田和政, やる気スコアの下位項目を用いたアパシー類型の予測, 第56回日本作業療法学会(京都府・Web開催), 2022年9月16-10月23日.
- 14) 海光拓磨, 木村大介, 山田和政, NIRS (near infrared spectroscopy) を用いたアパシーの類型化の検証, 第56回日本作業療法学会(京都府・Web開催), 2022年9月16-10月23日.
- 15) 浅野文哉, 石川真太郎, 木村大介, 山田和政, 大山章子, 安藤弘道, 当院退院患者の自宅でのFIM動向からみた訪問リハビリテーションの役割, 回復期リハビリテーション病棟協会第39回研究大会 in 東京(東京都), 2022年2月4-5日.
- 16) 細野了誠, 福田利佳, 越智 亮, 山田和政, 脳卒中片麻痺患者に対する歩行時の足関節背屈角度の改善を目的とした随意運動介助型電気刺激装置の刺激方法の検討, 第37回東海北陸理学療法学会(静岡県・Web開催), 2021年10月30-31日.
- 17) 水野竜杜, 福田利佳, 越智 亮, 山田和政, 脊髄損傷と上肢骨骨折の同時受傷にて免荷式歩行器リフトを用いた歩行練習が両ロフトランド杖歩行の獲得に効果的であった症例, 第37回東海北陸理学療法学会(静岡県・Web開催), 2021年10月30-31日.
- 18) 柳瀬陸, 福田利佳, 越智 亮, 山田和政, 積極的な起立練習により歩行機能改善が認められた脳卒中片麻痺患者の一症例, 第37回東海北陸理学療法学会(静岡県・Web開催), 2021年10月30-31日.
- 19) 市橋星香, 木村大介, 備前宏紀, 山田和政, NIRS(near infrared spectroscopy)を用いた脳卒中アパシーの類型化の取り組み, 第55回日本作業療法学会(宮城県・オンデマンド配信), 2021年9月10-11日.
- 20) 服部雅幸, 森 麻美, 山田和政, 干渉電流型低周波治療器により嚥下機能の改善を認めた Wallenberg 症候群患者の一症例, 第26・27回合同学会日本摂食嚥下リハビリテーション学会(愛知県), 2021年8月19-22日.

【その他】

- 1) 科学研究補助金基盤研究C(研究代表者)「眼球運動測定とNIRSの同時計測による新たな転倒予防介入に関する基礎的研究」(2016~2019年度)
- 2) 科学研究補助金基盤研究B(研究分担者)「認知症のBPSDに対するデータマイニングに基づく行動パターン解析に関する研究」(2018~2022年度)

- 3) 科学研究補助金基盤研究 C(研究代表者)「第 3 の転倒予防因子「視機能」を活用したビジョントレーニングによる転倒予防戦略」(2020～2023 年度)
- 4) 科学研究補助金基盤研究 C(研究分担者)「脳と関節運動のネットワーク解析を用いた運動学習における新たな定量的指標の開発」(2021～2025 年度)
- 5) 科学研究補助金基盤研究 C(研究代表者)「高齢者における運動パフォーマンスの向上に向けた「視機能」改善戦略の開発と効果判定」(2024～2027 年度)